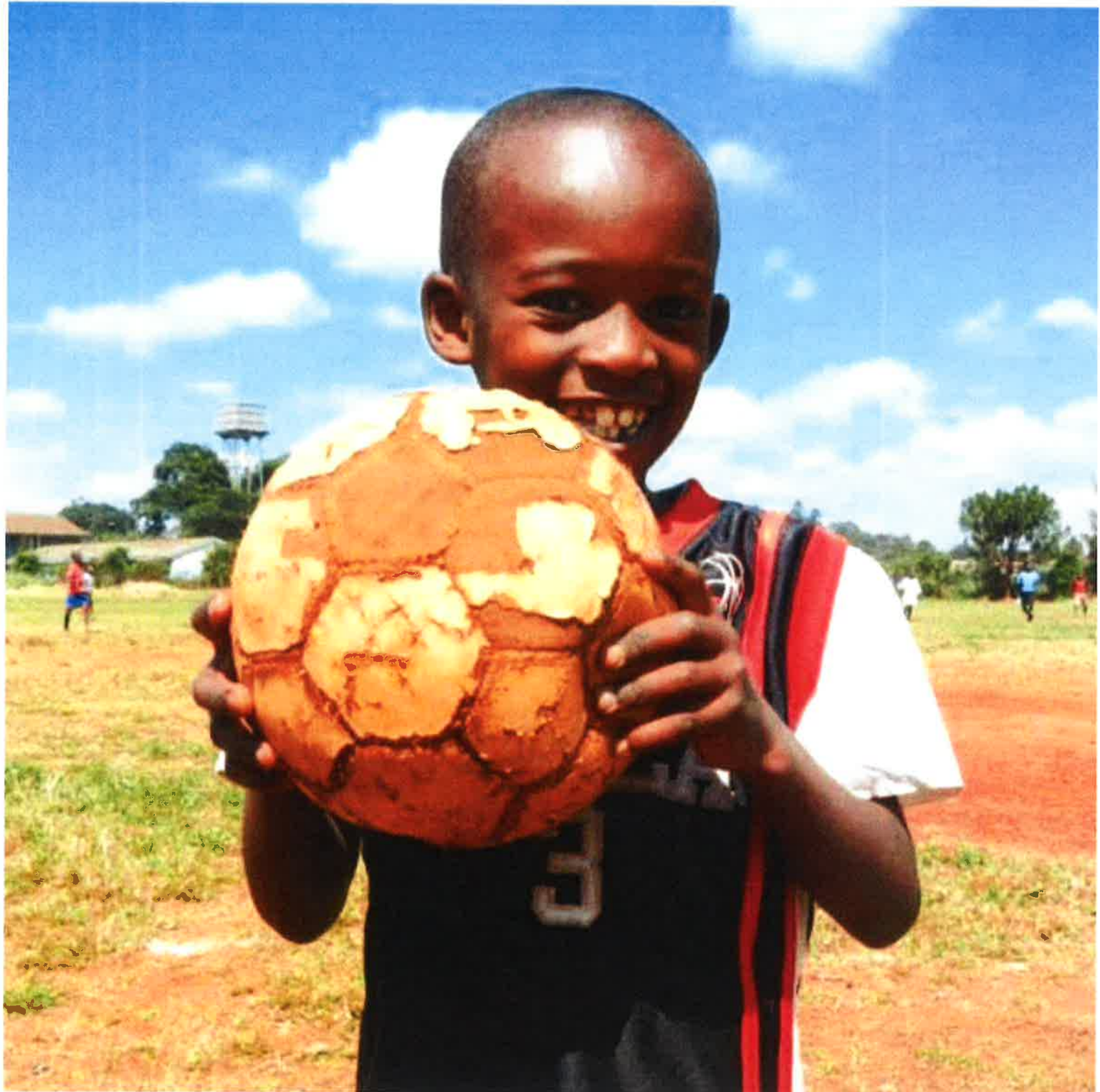


**SPORT
FOR
TOMORROW**

SFT REPORT

2014.1-2017.3



スポーツ庁長官挨拶

平素よりスポーツ・フォー・トゥモロー事業にご協力いただきありがとうございます。

2014年から始めたスポーツ・フォー・トゥモロー事業も今年で4年目を迎えました。会員団体の皆様のご尽力により、これまでに、190を超える国、約350万の人々にスポーツの価値を伝えることができました。

今後日本では、2019年にラグビーワールドカップが、2020年に東京オリンピック・パラリンピック競技大会が、2021年に関西ワールドマスターズゲームが開催されるなど、国際的なスポーツ大会が次々と開催される予定です。スポーツ界の注目が我が国に向けられる中で、スポーツ・フォー・トゥモローを通じ、官民が連携して、スポーツの力を日本から世界に発信する、またとない機会です。

スポーツ庁は、2017年4月から、第2期スポーツ基本計画をスタートさせました。その中で、「スポーツで『人生』が変わる!」、「スポーツで『社会』を変える!」、「スポーツで『世界』とつながる!」、そして「スポーツで『未来』を創る!」の4つを基本方針として掲げており、特に「スポーツで『世界』とつながる!」では、「多様性を尊重する世界」、「持続可能で逆境に強い世界」、「クリーンでフェアな世界」の実現への貢献をうたっています。そして、その具体的な取り組みとしてスポーツ・フォー・トゥモロー事業を位置付け、スポーツを通じた国際交流・協力を更に推し進めることとしております。

これまでのスポーツ・フォー・トゥモロー事業で培ってきたノウハウやネットワークを活用し、2020年を越えて、「人」と「スポーツ」で日本と世界をつなぐムーブメントへと発展させていきましょう。また、スポーツを通じた国際協力及び交流を我が国の文化として定着させ、レガシーとして後世に残していきたい。そのためには、各会員団体の積極的なご参加と、ネットワークの更なる拡充が不可欠です。

スポーツの力を日本から世界に発信するため、皆様とともに、スポーツ・フォー・トゥモロー事業を力強く推進してまいりたいと思っております。

これからも一緒にがんばってまいりましょう。



スポーツ庁長官
鈴木 大地

1998年のソウルオリンピック100m平泳ぎの金メダリスト。コロラド大学の客員研究員やハーバード大学水泳部のゲストコーチなどで留学を経験。2007年に博士号(医学)を取得。順天堂大学の教授や世界オリンピックズ協会の理事、日本水泳連盟の会長、日本オリンピック委員会の理事などを歴任し、2015年よりスポーツ庁の初代長官を務める。

スポーツ・文化・ワールド・フォーラム

ラグビーワールドカップ2019、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会、関西ワールドマスターズゲームズ2021等に向けて、観光とも運動させつつ、スポーツ、文化、ビジネスによる国際貢献や有形・無形のレガシー等について議論、情報発信し、国際的な機運を高めるためのキックオフイベントとしての国際会議を、2016年リオ大会直後の10月に、京都と東京で開催。

東京会場では、約70カ国のスポーツ大臣等が参加するスポーツ大臣会合を開催。会合では松野文部科学大臣(当時)を議長として、鈴木スポーツ庁長官のプレゼンテーション、各国大臣との3つのセッション(第1セッション「開発と平和のためのスポーツ」、第2セッション「万人のスポーツへのアクセス」、第3セッション「スポーツ・インテグリティの保護」)を実施。

議長サマリーとして、スポーツの力で未来の社会を変えていくという「未来のためのスポーツ(= Sport for Tomorrow)」の運動を進めて行くことを提言し閉幕。



スポーツ・フォー・トゥモロー (SFT) とは

「スポーツのチカラ」を日本から世界へ “Power of Sport” from JAPAN

「スポーツ・フォー・トゥモロー」は、

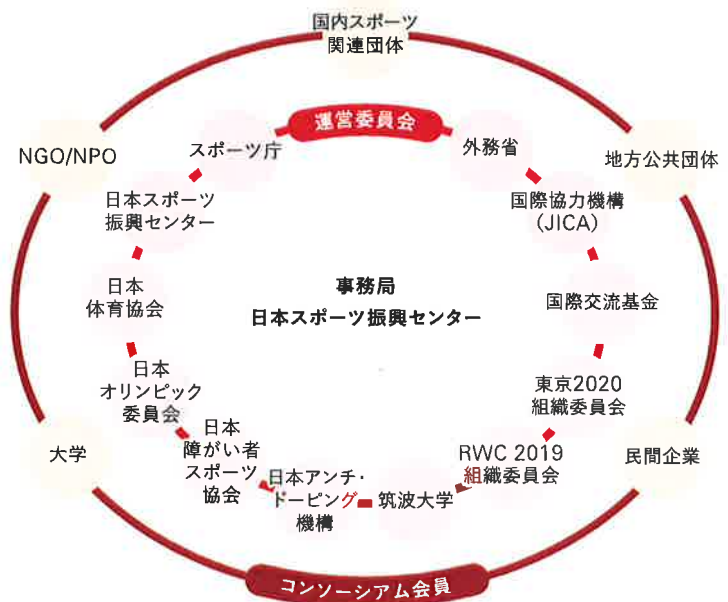
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催国として日本政府が官民協働で推進するスポーツを通じた国際貢献・交流事業です。

世界のあらゆる世代の人々にスポーツの価値を伝え、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントを広げ、スポーツの力でよりよい世界を作ることを目的としています。

2014年から2020年までの7年間で 開発途上国を中心に 100カ国以上・1000万人以上を対象 に、スポーツを通じた国際協力・交流、国際スポーツ人材交流、アンチドーピングの普及・啓発を推進しています。

SPORT FOR TOMORROW コンソーシアム

「スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム (SFTC)」は外務省やスポーツ庁を中心とした運営委員会と、スポーツ・フォー・トゥモローの趣旨に賛同し、スポーツを通じた国際協力・交流に携わる団体から成るコンソーシアム会員によって構成されたネットワークです。



SPORT FOR TOMORROW の3つの目的

スポーツの普及と国際競技レベルの向上



ハイパフォーマンスセンター
モンゴル・コスタリカ女子ナシ
ヨナルチームの招へい



南アジア・U-16国際親善大会

スポーツの力で世界を変える(平和と開発)



マラウイ・運動会



東京・ランニングクリニック

スポーツ交流を国民的な文化に



カンボジア・地雷のない土地
北海道・アイスホッケー交流
でボールを手に



北海道・アイスホッケー交流
でボールを手に

世界に広がるスポーツ・フォー・トゥモロー

ヨーロッパ

スペシャルオリンピックス スイス代表 へのレーシングスーツの提供

▶実施団体：(株) デサント

▶実施団体からのコメント：企業理念である「すべての人々に、スポーツを遊ぶ楽しさをもと、アスリートの限界への挑戦やスポーツを愛する人々の熱き想いを支えてきました。今回のレーシングスーツも、モノ造りのノウハウを集結し、選手一人ひとりの体型に合わせて作製しました。



中央アジア

スポーツを通じたネパール震災復興支援

▶実施団体：日本スポーツ振興センター、Jリーグ、FC東京、日本国際協力システム (JICS)、ネパール野球リーグラスの会

▶実施団体からのコメント：2015年4月に大地震が発生したネパール。子どもたちにスポーツのチカラで感動と喜びを伝えることを目的に複数の会員団体が連携して、サッカー・野球・バレーボールのスポーツ教室を実施しました。



アフリカ

ジンバブエにおける障がい者スポーツ 普及講習会

▶実施団体：日本パラリンピック委員会

▶実施団体からのコメント：ジンバブエの障がい者社会と教育・スポーツ界に新たなムーブメントをもたらす活動になったと評価されました。SFTC会員団体から提供を受けたスポーツ用具は参加関係者に大いに喜ばれました。



東南アジア

ハートフルサッカー in アジア (ミャンマー)

▶実施団体：浦和レッドダイヤモンズ

▶現地学校からのコメント：昨年は洪水被害で来ていただくことができませんでしたが、再びこの学校まで来ていただいていたいへん感謝しています。普段おとなしい子どもたちも笑顔いっぱいサッカーができたことを本当に感謝しています。



アジア・太平洋

アジア太平洋子ども会議・イン福岡

▶実施団体：福岡県

▶実施団体からのコメント：交流を継続して実施することで、過去の参加者による協力やこの事業以外での交流が生まれるなど、単なる国際交流イベントから地域や学校を広範に巻き込んだ国際交流プログラムへと効果が広がっています。



スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアムに加盟する会員団体（2017年3月末時点で296団体）によって、世界中でスポーツを通じた国際貢献・交流活動が行われています

2014年1月～2017年3月の間に
世界中の193カ国で
2866件のプログラムを実施しました。

この「SFT REPORT」には
実施プログラムのうちの一部を
掲載しています。

オセアニア

「パシフィック・パートナーシップ2016」における パラオへの柔道着等輸送

▶実施団体：防衛省・柔道教育ソリダリティ

▶実施団体からのコメント：海上自衛隊の輸送艦「しもきた」で、柔道熱高まるパラオへ柔道着50着と柔道用量110枚を輸送。寄贈された柔道着を着た子どもたちの眩しく弾けた笑顔が印象的でした。



南米

なないろ駅伝、OVEPプログラム(ブラジル)

▶実施団体：筑波大学

▶実施団体からのコメント：日本の伝統スポーツである駅伝を通して、Rio2016からTokyo2020、さらに未来に向けて、「友情」と「インクルージョン」のメッセージをタスキに乗せ、形あるレガシーとして後世につなげていくことを目的に開催しました。



日本におけるスポーツ・フォー・トゥモロー

スポーツ・フォー・トゥモローの活動は
日本各地で行われています



日本バドミントン協会や日本卓球協会では、大会の機会を活用して来場者から使わなくなった用具を回収し、開発途上国に寄贈しています。



兵庫県姫路市が実施する「世界遺産姫路城マラソン」には海外から100名以上の選手が参加しました。このイベントはスポーツ庁によって国内外の観光客増加や長期滞在を生み出す事業として「スポーツツーリズムアワード」に選出され、SFT認定事業としても承認されています。



サニックスはスポーツを通しての青少年の健全育成、普及と競技力の向上、国際的異文化交流を基本理念として、様々なスポーツ国際大会を開催しています。



群馬県前橋市では、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催を契機に「人的つながりを大切にした継続的な国際交流、事前合宿地誘致など国際交流の強化」に一丸となって取り組んでいくこととして、ハンガリーを対象国にホストタウン登録しました。



さっぽろ健康スポーツ財団では、SFT認定事業として札幌国際スキーマラソン大会他の開催や、開発途上国へのスポーツ用具等提供を実施しています。また、SFT認定事業を通じて国際貢献を行ったことが『JPPC日本公共スポーツ施策推進協議会』のボトムアップ提案事業において評価され、「Original部門賞」を受賞しました。



サッカーJリーグのFC東京では、ホームゲームに外国人の方々を招待しました。



講道館では国内・海外選手合同の柔道合宿を行っています。海外の方の合宿受け入れ、練習受け入れも、SFT事業として認定されています。



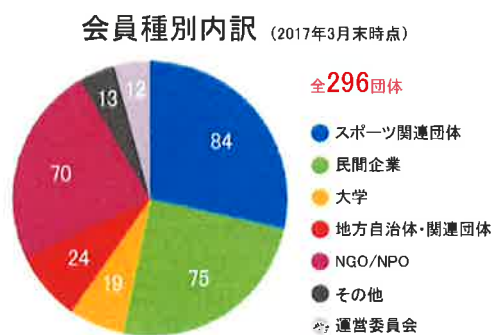
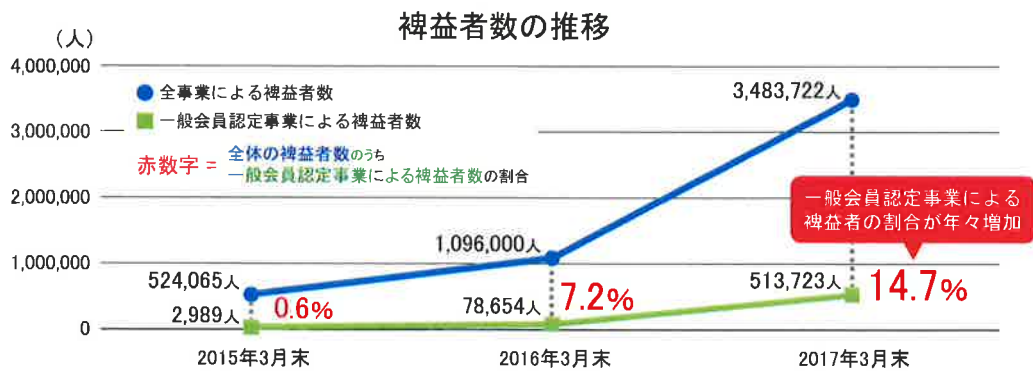
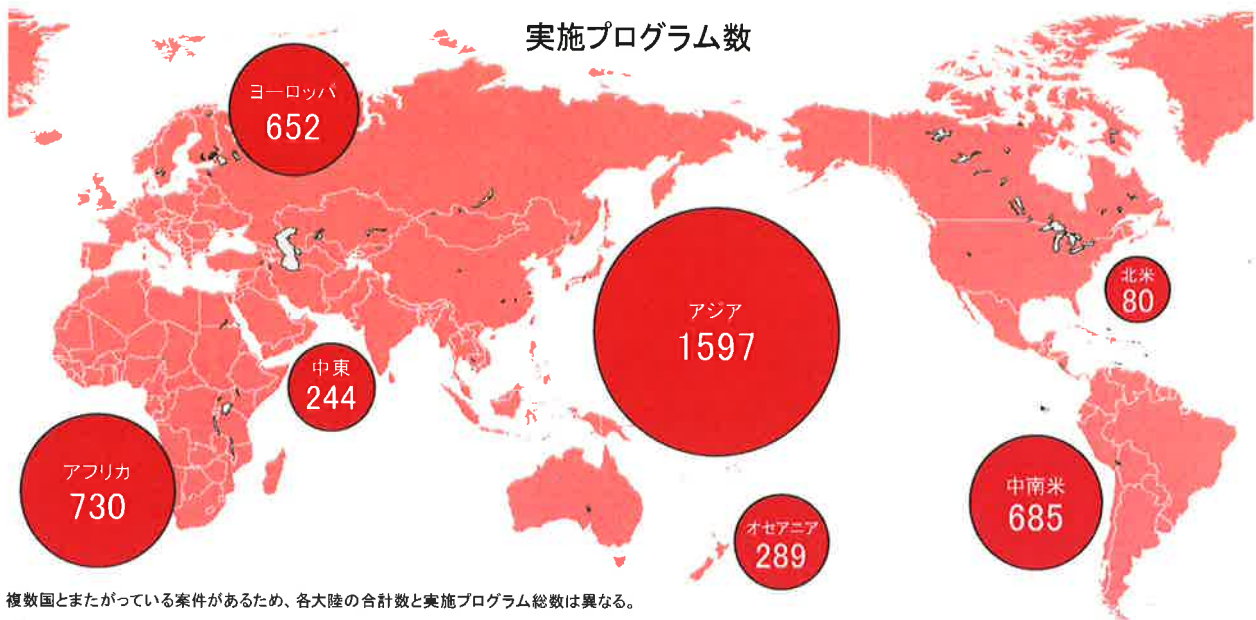
高知県では日本国内外で外国人も対象としたよさこいの海外普及活動やイベントへの派遣及びイベントを開催しています。

データから見るSFT

活動実績

2014年1月-2017年3月

裨益国 193 力国・地域	裨益者 3,483,772 人	会員団体 296 団体	実施プログラム 2,866 件
-------------------------	---------------------------	-----------------------	---------------------------



スポーツ・フォー・トゥモローの活動領域

1 スポーツを通じた国際協力及び交流

ハード・ソフトの両面からスポーツを通じた国際協力及び交流を推進しています。



卓球4カ国合同合宿招へい事業

[1] スポーツの普及と国際的競技レベルの向上

日本のスポーツ団体からコーチ・選手等を開発途上国等に派遣し、競技普及や競技力向上を目的とした講習会やスポーツイベントを実施しています。日本スポーツ振興センターと日本オリンピック委員会では、海外から選手やコーチを日本に招へいし、味の素ナショナルトレーニングセンターを



ベトナムでのサッカー

を活用した技術指導や合同合宿を実施しています。最新設備が整った練習環境、日本人コーチによる技術指導、東京での生活体験は参加者から高い評価を受けています。

[2] 日本型スポーツコンテンツ・プログラムのカスタマイズ化・輸出

ラジオ体操、柔道、相撲といった日本のスポーツコンテンツや文化を海外の国々で紹介しています。それらの活動では、技術やルール等の紹介に留まらず、根底にある日本の「こころ」もスポーツを通して伝えられています。マレーシアでは、ナショナルスポーツデー関連イベント「Fit Malaysia」にて1000名以上の人にラジオ体操を紹介しました。タイでは現地大学・スポーツ団体を対象として、日本の知見を生かしたタレント発掘や学校体育カリキュラムに関するセミナー・ワークショップを開催しました。



タイにおけるラジオ体操の展開



南米での共生型スポーツ普及事業

[3] 開発と平和のためのスポーツ (SDP) ・ Sport for All プロジェクト

スポーツを通して社会発展・経済発展・平和の維持などを目指した活動が行われています。スポーツ庁と嘉納治五郎記念国際スポーツ研究・交流センターは、国連開発と平和のためのスポーツ局 (UNOSDP) と連携して、ユースリーダーの育成プログラムを実施しました。また、難民キャンプや地震・洪水などの被災地、地雷埋設地域では、復興支援などを目的としたサッカーやバレーボール、野球などのクリニックが会員団体によって実施されています。さらに、「ふうせんバレーボール」、「卓球バレー」、「障がい者武道」等の共生型スポーツ(※1)を海外に普及する活動も展開されています。

※1: 障がいの有無・種別・程度に関わらず、高齢者、障がい者が幅広く参加可能なスポーツ

[4] 「UNDOKAI (運動会)」の国際展開

日本の代表的なスポーツ文化である「UNDOKAI (運動会)」を開発途上国で紹介しています。年齢・性別を問わず、一度に様々な人が様々な種目を楽しめる運動会は、海外ではあまり類を見ない活動です。綱引き、徒競走、組体操など日本の運動会でも馴染みの競技を実施し、チームワーク・規律・共生など日本の運動会の価値を広めています。東アフリカのマラウイでは、運動会の定着を目的とし、運動会の指導者を3年間に亘って養成してきました。カンボジア・タイ・ラオス・グアテマラ・エチオピアなどの国々でも、会員団体やJICAボランティアによって運動会が開催されています。



学生団体による海外での運動会紹介事業



国際武道大による運動会紹介事業

[5] 障がい者のスポーツ参加促進

スポーツを通じた共生社会の実現を目指し、障がい者のスポーツ参加促進に取り組んでいます。スポーツを選択し楽しむための環境やアクセスの改善、ルールや用具が工夫されたスポーツの普及、スポーツを通じた相互理解の促進等が、会員団体によって世界各国で進められています。例えば、ラオスではアジアの障害者活動を支援する会や難民を助ける会等の働きかけにより、現地政府とも連携して車いすバスケットボールなどの障がい者スポーツを盛り上げてきました。ジンバブエでは、日本パラリンピック委員会が日本の競技団体や民間企業と連携し、障がいがある青少年に対するスポーツの機会提供や競技力向上に取り組んでいます。



ラオスでの車いすバスケットボール



カンボジアでの障がい者の社会参加促進を目指した陸上教室



マレーシアでのSFTエキシビジョン

[6] 学校体育教育の発展を目指して(カンボジア)

SFTは、より良い未来を目指し、学校体育教育を通じた国際協力・交流を推進しています。会員団体ハート・オブ・ゴールドは、多様な団体と連携し、カンボジアの子どもの豊かな心と健やかな体作りを目指し、2006年より小学校体育科教育の支援を行っています。その経験を活かし、2015年からは中学校体育の指導要領や指導書の作成支援と普及に取り組んでいます。作成された学習指導要領は、態度・知識・技術・協調性を学べる要素を含んでおり、体育教育の重要性を示すとともに、未来を担う子供たちの発達において大切な役割を担います。



カンボジアの中学校でバスケットボールなど様々なスポーツを実施

有森裕子さんより

元マラソン選手。バルセロナ五輪で銀メダル、アトランタ五輪で銅メダルを獲得。1998年、NPO法人ハート・オブ・ゴールドを設立、代表理事就任。現在、国際オリンピック委員会(IOC)スポーツと活動的委員会委員、日本陸上競技連盟理事などを務めている。



ハート・オブ・ゴールドは、スポーツを通じた国際協力の初のケースとして官民学が連携した小学校体育科復興事業に引き続き、中学校の体育科指導要領の作成を支援し、現在は、指導書の作成・普及に取り組んでいます。カンボジアの復興がカンボジア人によってなされるためには人材育成が何よりも必要です。その過程に携われることを誇りに思います。

[7] スポーツを通じた民族融和(ボスニア・ヘルツェゴビナ)

難民キャンプや民族対立が発生している地域などにおいて平和を目指した事業も行われています。元サッカー日本代表主将で、会員団体Little Bridgeの宮本恒靖氏は、ボスニア・ヘルツェゴビナに、異なる民族の子どもたちが共にスポーツを学ぶアカデミー「マリ・モスト(現地語で「小さな橋」の意)」を開設しました。また、日本政府は、政府開発援助(ODA)を活用し、アカデミーの活動場所となるモスタル市のサッカー場とクラブハウスを改修。2016年10月には官民連携でサッカー場の引渡式とアカデミーの開校式が実施されました。

宮本恒靖さんより

元サッカー選手。Jリーグのガンバ大阪、オーストリア・ブンデスリーガのレッドブル・ザルツブルクなどのチームに所属。日本代表として2002年と2006年のFIFAワールドカップに出場し、キャプテンを務めた。現役引退後にFIFAマスターを卒業。現在、ガンバ大阪U-23監督を務めている。



Little Bridgeは、「異なる民族の子どもたちが、一緒にスポーツを楽しむことを通して、民族対立感情を和らげていく」ことを目的としたスポーツアカデミーを運営しています。2017年8月には10

名の子子どもたちが日本を訪れ、日本の子どもたちと交流を図ることを予定しています。アカデミーで様々な経験をした子どもたちが、各民族間に橋をかけられるような人材になってくれることを楽しみにしています。



開設したスポーツアカデミー「マリ・モスト」で指導する宮本恒靖氏

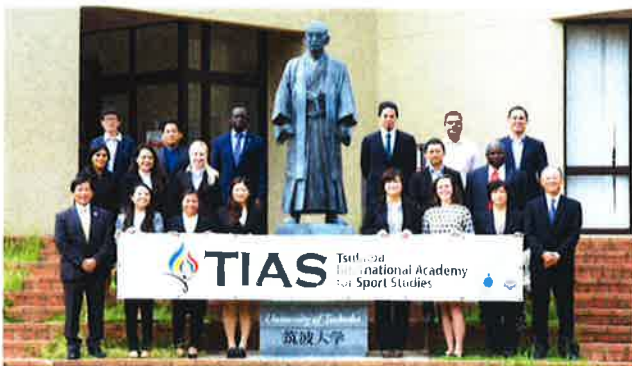


サッカー場とクラブハウス

2 国際スポーツ人材育成拠点の構築

将来の国際スポーツ界のリーダーを育成するために、国内外の若者等を対象とした大学院修士コースの開設と、日本文化やスポーツマネジメントを学べる短期セミナーを開催しています。

▶ 筑波大学 つくば国際スポーツアカデミー (TIAS)



TIAS 第2期生の入学式の様子

筑波大学 TIAS は、第1期入学者受入前の期間には、IOC が中心となって設立したスポーツマネジメント大学院 AISTS との連携による TIAS & AISTS 短期プログラムを2回開催し、選考で決定された30数名の参加者によって大きな成果が上げられました。平成27年10月には筑波大学人間総合科学研究科博士前期課程体育学専攻内に、スポーツ・オリンピック学学位プログラムを設置しました。第1期入学者は応募者73名のところ19名、第2期入学者は応募者76名のところ19名を受け入れております。本アカデミーでは、これからも継続的に国際スポーツ界のリーダーとして活躍する人材を育成する拠点を形成することにより、国際社会に大きく貢献していきたいと考えております。

▶ 日本体育大学 コーチ育成者養成アカデミー (NCDA)



短期プログラム閉会式後、修了証を手にディレクター、講師、スタッフと共に記念撮影

日本体育大学は、125年以上にわたり、多くのスポーツ指導者の育成を行ってきました。この特徴を活かし、2014年よりコーチ育成者の育成を主眼とする「NSSU Coach Developer Academy(略称: NCDA: スーパーコーチャー・アカデミー)」を設立しました。本アカデミーは、対面式の短期宿泊プログラムとその事前事後に学習プログラムとしてオンラインモジュールを活用したブレンド型学習方式を採用しています。これまでに6地域22カ国から38名のコーチ育成者を受け入れ、本受講者を通じての被益者は11,300名を超えています。今後も各国で行われているコーチ育成の実践に継続的に貢献していきたいと考えています。

▶ 鹿屋体育大学 国際スポーツアカデミー (NIFISA)



セミナーでの授業のあとで (NIFISA)

スポーツ界におけるグローバル人材の育成を目的にアジア諸国の大学院生や若手指導者を主な対象とした「National Institute of Fitness and Sports in Kanoya International Sport Academy (略称: NIFISA)」を開設しています。本アカデミーでは、オリンピック教育に加え、スポーツマネジメントのコースとスポーツパフォーマンスコースを開講しています。セミナーの期間中に開催する国際シンポジウムや国際コンフェレンスは、一般にも解放しています。これまでに5回実施し、25カ国から94名が参加しました。

3 国際的なアンチ・ドーピング推進体制の強化支援

日本アンチ・ドーピング機構（JADA）では、アンチ・ドーピングを通して未来のロールモデルとなるアスリートやリーダーを育成するための教育プログラムの開発・提供や、スポーツの価値を守り、その価値を広める活動を、各国のスポーツ、教育機関等と連携し、展開しています。

▶ アンチ・ドーピング活動推進のための “教育パッケージ” 開発と展開

未来のロールモデルアスリートや、社会のリーダーを育てることを目的に、スポーツの価値とアンチ・ドーピングのルールを教えることができる教材を開発しました。JADAが日本で実施している教育をベースに作成されたこの教材の中には、言葉に依拠しないマンガムービーや、アンチ・ドーピング研修会スライド、学校や地域のイベント等でも活用できる指導の手引きなどが含まれており、全てのデータは専用Webサイトからのダウンロードが可能です。ベトナム語への翻訳や、韓国でもマンガムービーを積極的に教育活動に取り入れる等、少しずつその活用展開が世界中に広がっています。

https://www.playtrue2020-sp4t.jp/edu_package/



映像や指導の手引き等、種類豊富な教材



マンガムービーを活用した
アンチ・ドーピング研修会



教育パッケージの教材データ(全て英語表示)がダウンロードできるWebサイト



翻訳した教材を活用したベトナムでのアンチ・ドーピング研修会



検査員育成の様子

▶ 各国アンチ・ドーピング機関の人材育成支援

主にアジア・オセアニア地域におけるアンチ・ドーピング活動の実効性の向上を目指し、各国のアンチ・ドーピング機関のスタッフを対象に人材育成支援を行っています。ベトナムでは、支援を受けたスタッフを中心となり、2016アジアビーチゲームズに向け、ドーピング検査員の育成、アスリート向けのアンチ・ドーピング研修会の実施や教材のベトナム語化など、様々な活動を展開しています。

また、各国のアンチ・ドーピング機関のスタッフを招聘して国際セミナーを開催し、最新のアンチ・ドーピングに関する情報の共有や、各国の活動の進捗をフォローアップしています。

▶ PLAY TRUE トーチリレー

国や競技、世代の異なる様々なアスリートたちが、スポーツにおける真実（Truth）、スポーツや人生を通して大切にしている真実を語るインタビュープロジェクトです。専用Webサイトを通して、アスリートからのメッセージを世界そして未来へリレーしていきます。これまでに国内外のオリンピック、パラリンピアンをはじめ10カ国13名のアスリートが参加しています。

<http://playtrue2020-sp4t.jp/torchrelay/jp/index.html>



PLAY TRUEトーチリレーサイト(日/英)

SFTC 会員になるには

- ▶ **入会条件** スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアムの趣旨に賛同いただけるスポーツを通じた国際貢献・国際交流に携わる競技団体・NGO/NPO・地方公共団体・民間企業大学等。
- ▶ **入会金** 無料
- ▶ **入会の流れ**
 1. **資料のダウンロード**

上記ウェブサイトから4つの資料をダウンロードしてください。 <http://www.sport4tomorrow.jp/jp/inquiry/>
「SFTC入会申込書.doc」・「プライバシーポリシー.pdf」・「SFTC入会申込書（記載例）.pdf」・
「SFTCについて（会則）.pdf」
 2. **入会申込書の作成**

「SFTCについて（会則）.docx」と「プライバシーポリシー」をお読みになった上で、「SFTC入会申込書.doc」に必要事項を記入してください。
 3. **入会申込書の送付**

記入済みの「SFTC入会申込書.doc」をスポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム事務局 (sft.info@jpnssport.go.jp) へお送りください。
 4. **審査・承認**

SFTC運営委員会で審査・承認を行います。
ご承認後、スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム事務局よりご連絡差し上げます。

会員が活用できる情報・機会

さまざまなツール、機会により、他の会員団体の情報を得たり、関係を築くことができます。

SFT公式サイト

<http://www.sport4tomorrow.jp/jp/>
会員による認定事業はSFT公式サイトに掲載しています。



Facebookページ

「スポーツ・フォー・トゥモロー / Sport for Tomorrow」

会員による認定事業はSFTのSNS (Facebook, Twitter, Instagram) で参加者募集などの情報を発信することができます。また他の会員の活動内容を知ることができます。



SFT会員専用サイト

会員は専用サイトで他の会員の情報や事業情報を検索することができます。



SFTメーリングリスト

会員はメーリングリストを通じて協力団体やイベント参加者等を募集することができます。SFTC事務局からも随時情報を発信しています。

SFTC全体会議・会員交流会

年2回会員団体が集まる機会として「全体会議」と「会員交流会」を実施しています。「全体会議」はSFTC運営委員会から会員団体に対して事業の方針等を方針等を伝える場、「会員交流会」は会員同士の連携を促進する場として開催しています。

会員団体による活動 = SFT 認定事業

▶ SFT 認定事業とは

会員団体が実施するスポーツを通じた国際貢献事業・国際交流事業について、会員団体からの申請を受け、SFTC 運営委員会で「SPORT FOR TOMORROW 認定事業」として認定した事業です。

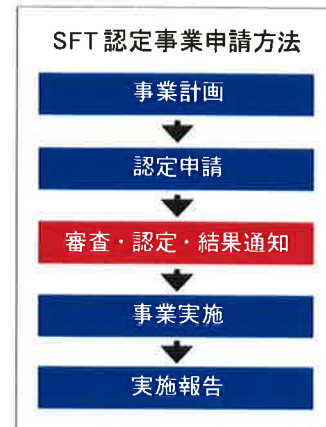
▶ SFT 認定事業のメリット

SFT 認定事業では、SFT のロゴやバナーを利用して、SPORT FOR TOMORROW のムーブメントを世界に広げていくことができます。

また、SFT 認定事業になることで、事業の認知度アップ、参加者のモチベーションアップなどが期待できます。

▶ SFT 認定事業の申請・実施方法

原則として事業実施前に、会員団体から SFTC 事務局に提出された認定事業申請書をもとに SFTC 運営委員会にて審査・認定します。



会員団体のマッチングによる SFT 認定事業

会員が単独で行うことが難しいプロジェクトも、様々なリソースを持つ他の会員団体とのマッチングによって実現することができます。会員は、SFT 会員専用サイト等を使って他の会員団体の情報を知ることができる他、メーリングリストを利用して協力団体を募集することもできます。

例) 2016 年ホノルルマラソンでのラジオ体操実施

海外でイベントを実施する団体

アサツデー・ケイ

ホノルルマラソンの開催に関わる団体。開催中に日本のラジオ体操を現地で紹介したい！

スポーツコンテンツを持つ団体・指導者を派遣できる団体

全国ラジオ体操連盟

ラジオ体操のことならおまかせ！の専門団体。

会員団体でホノルルマラソン日本事務局を務めるアサツデー・ケイが、ホノルルマラソン開催期間中のイベントにて日本のスポーツコンテンツである「ラジオ体操」を紹介することを企画し、スポーツ庁や SFTC 事務局の仲介により、同じく会員である全国ラジオ体操連盟とのマッチングが実現しました。2016 年 12 月 9 日から 11 日の期間中に、全国ラジオ体操連盟の指導者が現地ハワイ・ホノルルに出向き、実演指導を行いました。



日本スポーツ振興センターが作成したラジオ体操テキスト英語版を配布。今回の企画に合わせて、テキストの現地語バージョンも作成して配布しました。

例) 日本卓球協会による中古用具募集

大会で用具の回収をする団体	回収した用具を海外に輸送する団体
日本卓球協会	外務省・NGOなど
大会の主催者。大会会場で中古卓球用具を回収して海外の子供などに贈りたい。	海外に物資を届けるルートを持っている。

会員団体である日本卓球協会が計画した中古卓球用具募集事業。集めた用具の海外への輸送は外務省・NGO等の海外への輸送手段を持つ団体が担い実現しました。「ラオックス卓球ジャパンオープン荻村杯2016」では、52名の方からご寄付いただいたラケット90本、ラバー337枚が海外の支援先に送られました



●海外に発送

協会関係者のハンドキャリー
競技団体予算による輸送
JICAプログラムへの提供
SFTC事務局によるマッチング
外務省スポーツ外交推進事業

ラケット90本
ラバー337枚

- 大会HPや日本卓球協会・SFTのFacebookで告知、大会会場で選手が呼びかけ



- 大会会場にブースを設置し、収集



運営スタッフは、卓球協会が募集。備品はSFTC事務局が用意。

例) 千葉県一宮町から南アフリカへのサーフボード寄贈事業

サーフボードの収集をする団体	サーフボードを南アフリカに輸送する団体
千葉県一宮町	商船三井
東京2020大会のサーフィン競技会場に決定。サーフボードを集めて南アフリカに贈ることに。	無償で南アフリカへ輸送。

Surfers Not Street Children

南アフリカでストリートチルドレンにサーフィンを教えるNGO。
当事業ではこの団体にサーフボードを寄贈し、現地での受け入れ態勢の調整も担ってもらいました。

「何か世界でできることを！」東京2020大会のサーフィン競技会場に決定した千葉県一宮町はスポーツ庁に相談しました。相談を受けたスポーツ庁とSFTC事務局は会員によるマッチングを実施、南アフリカでストリートチルドレンにサーフィンを教えるNGOにサーフボードを寄贈するプロジェクトが立ち上がりました。

本プロジェクトは2017年5月に同町で開催された国際サーフィン大会で発表され、一宮町は地元のサーフィン業組合や周辺自治体と連携して100本のサーフボードを寄贈します。海上輸送を会員団体である商船三井が担うことでサーフボードは無償で送付されます。





スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム事務局

〒107-0061 東京都港区北青山2-8-35

独立行政法人日本スポーツ振興センター 情報・国際部内

Tel: 03-6804-2776 Fax: 03-3403-1570 Mail: sft.info@jpnssport.go.jp